

畜産経営競争力強化支援事業費

| 事業評価個票（事業実施：平成30年度） | | | | 部局名 | 農林水産部 | | | |
|--------------------------|---|---|------------|--------------|-----------------------------------|--------------|--------------|-------|
| 短期アクションプラン | テーマ | テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業 | | | | | | |
| | 施策 | 施策5 畜産業の競争力強化 | | | | | | |
| | 目的 | 県産畜産物の生産拡大とブランド力向上を進めることにより、グローバル化の進展などにもない激化する産地間競争を勝ち抜く競争力の高い畜産業の振興を図る。 | | | | | | |
| | 目標指標(R2) | 畜産による産出額 | 500億円 | | | | | |
| | 策定時の実績 | 447億円(H26) | 現状 | 471億円(H28) | 主要事業 「山形生まれ山形育ち」の畜産物の生産拡大とブランド力向上 | | | |
| 事業名 | 畜産経営競争力強化支援事業費 | | 担当課・担当 | 畜産振興課 畜産振興担当 | | | | |
| 事業開始年度 | 平成29年度 | | 事業終了(予定)年度 | 令和2年度 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に) | 意欲ある畜産担い手の規模拡大や省力化・生産性向上に向けた施設・機械の整備等に対して助成することにより、本県畜産業を牽引する競争力の高い経営体を育成するとともに、畜産による産出額の増加に資する。 | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度で簡潔に) | ①営農集団(2戸以上の畜産農家)が行う畜舎等の施設整備や畜産機械の導入等への助成 ②生産性向上技術の導入や畜産物・畜産加工品の販路拡大活動等への助成 ③養蜂の生産基盤強化に向けた女王蜂の導入等による蜂群の増殖・確保活動への助成 ④肥育農家が新たに繁殖部門を導入し、一貫経営へ移行する場合の繁殖雌牛導入への助成 補助率①、②、③:1/3以内(市町村等が協調補助を行う場合は1/2を上限に上乘せ)、④:1/3以内(上限175千円/頭) | | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:規模拡大や省力化・生産性向上に向けた施設・機械の整備等の取組みを市町村等を通して支援するため。 | | | | | | | |
| 予算額・決算額 (単位:千円) | 費目(予算見積書のグループ名) | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | | |
| | ハード整備支援(県単) | 173,195 | 173,832 | | | | | |
| | ソフト活動支援 | 1,000 | 1,520 | | | | | |
| | 推進費 | 58 | 58 | | | | | |
| | ハード整備支援(国庫) | 315,267 | 1,238,641 | | | | | |
| | 和牛繁殖・肥育一貫経営支援 | 7,667 | 7,000 | | | | | |
| | 計 | 497,187 | 1,421,051 | 0 | 0 | 0 | | |
| 財源内訳 (単位:千円) | 国庫支出金 | 315,133 | 1,238,507 | | | | | |
| | 繰入金 | 0 | 0 | | | | | |
| | その他特定財源 | 0 | 0 | | | | | |
| | 一般財源 | 182,054 | 182,544 | | | | | |
| | 計 | 497,187 | 1,421,051 | 0 | 0 | 0 | | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
| | ①ハード事業の支援件数(国庫、県単) ②一貫経営移行農家への繁殖雌牛導入助成頭数 | 活動実績 | ①件 ②頭 | ①29件 ②40頭 | ①39件 ②40頭 | | | |
| | | 当初見込み | ①件 ②頭 | ①22件 ②40頭 | ①24件 ②40頭 | ①22件 ②40頭 | ①22件 ②40頭 | |
| 成果指標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標 (所管部局の分析) | | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
| | 畜産による産出額 (農林水産省生産農業所得統計、畜産振興課独自調査) | 成果実績 | 億円 | 469 | 未確定 | | | |
| | | 目標値 | 億円 | 475 | 485 | 495 | 500 | |
| | | 達成度 | % | 98.7 | | | | |
| 関連事業 | やまがたの和牛増頭戦略事業費 | | | | | | | |

事業目標の考え方(事業目標設定時)

①目標の考え方

畜産農家戸数や飼育頭数が減少する中で、地域の中心となる畜産担い手を確保・育成するとともに、畜舎の整備や家畜の増頭等により生産基盤を拡大し、畜産の振興を図っていくことが重要であることから、畜産の状況全体を表すものとして、畜産による産出額を目標に設定。

②目標数値の考え方

やまがた創生総合戦略の畜産分野の目標値である畜産産出額450億円(生産農業所得統計における目標値、H31年度)をベースに、畜産農家等が自ら取り組む畜産加工による付加価値増加額等を加え、畜産による産出額の目標を500億円に設定。

事業所管部局による評価・検証

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|---------------------------------|--|--|---|
| 事業目標の妥当性・達成度 | 事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | A | ・TPP11や日欧EPAが発効するなど新たな国際環境下で、本県畜産業の持続的発展を図っていくため、生産基盤の強化等により競争力の高い畜産経営体の育成を図っていくことが求められており、畜産業界のニーズを反映している。 |
| | 明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。 | A | ・畜産による産出額の増加に直結する取組みを支援するものであり、優先度の高い事業である。 |
| | 目標水準は妥当か。 | A | ・高齢化等に伴い、畜産農家戸数や飼育頭数の減少が続いている中で、本県畜産業が産地間競争に打ち勝っていける水準の目標を設定しており、妥当である。 |
| | 期待する成果が得られたか。 | B | ・成果(畜産による産出額)については、概ね目標に即している。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | A | ・整備した施設や機械は十分に活用され、増頭など生産基盤の強化につながっている。 |
| 事業内容の妥当性 | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | A | ・活動実績は、ハード事業の支援件数において見込みを上回っている。 |
| | 支出先の選定は妥当か。 | A | ・支出先(補助金の交付先)は、事業目的に合致する活動を行う事業実施主体に限定しており、妥当である。 |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | A | ・受益者の投資負担を軽減し、早期に経営の安定を図る観点から補助率を設定しており、負担関係は妥当である。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | A | ・補助対象経費については、事業目的に合致するものに限定している。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | A | ・受益者のニーズに応じて効果的に支援するため、ハード整備支援とソフト活動支援の事業構成で実施している。 |
| 類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。 | A | ・目標達成に向けた取組みを重点的・効果的に支援するため、他の補助事業と役割分担して実施している。 | |
| の役割 妥当 分担 | 市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。 | A | 本事業は、市町村や農協等民間と連携しながら、県全体で畜産業の振興に取り組む事業であり、県内の生産者間で事業活用機会に差が生じることのないよう、県が実施する必要がある。 |
| 今 改 善 の 課 題 ・ | <ul style="list-style-type: none"> ・経済連携協定の進展や産地間競争の激化に対応して、引き続き、規模拡大等による生産基盤の強化の取組みを支援していく必要がある。その中で特に中小規模農家の生産性向上等による経営の安定化を推進していく必要がある。 ・こうした観点から、平成30年度においては、新たに養蜂家の生産性向上に向けた取組みを支援するソフト事業を創設した。 | | |

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない